

探究する力とは

先日の12月19日(木)の3・4校時に、1年次生は「総合的な探究の時間」の研究授業が実施されました。本校の生徒、教員以外に、教育委員会や他校の先生方にも参加していただきました。今年度に入り、本校は青森県や石川県の教育委員会や先生方から、「総合的な探究の時間」や学校経営に関することで訪問を受けています。

本校は神奈川県教育委員会より平成30年10月1日に県立高校改革Ⅱ期計画のなかで「総合的な探究の時間」研究開発校に指定されました。

次期学習指導要領が平成30年3月に告示され、そのなかで「総合的な学習の時間」が、「総合的な探究の時間」に変更され、さらに平成31年度から先行実施されることになったのです。

なぜ高校だけ「総合的な探究の時間」になったのでしょうか。文部科学省は「総合的な学習の時間」が、高校で不適切な事例が見られたことと、学校種間での重複が見られたことなどから、高校だけが「総合的な探究の時間」になったのです。いままでの高校の「総合的な学習の時間」の本来の目標は、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。」と学習指導要領には記されていました。新学習指導要領の

「総合的な探究の時間」には、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と記されています。さらに『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』の第2節目標の趣旨では、「生徒は、①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、②そこにある具体的な問題について情報を収集し、③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組む、④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。」と記されています。「探究」自体は、物事の本質を自己との関わりの中で探り見極める知的な営みです。探究を行っていく上で、大切なのは探

究の見方・考え方だといわれています。その見方・考え方には二つの要素が含まれます。一つは、各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統一的に働かせること、もう一つは、総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせることです。学校での探究する力を身に付ければ、これからの予測不可能な社会でも重要な役割を果たすことになるのです。

次に「総合的な探究の時間」の一例をあげてみましょう。

学校周辺で見かけるカラスですが、死体を見ることがないといわれます。筆者は交通事故に巻き込まれて死んだカラスを道路の側溝で見かけたことがあります。しかしながら多くの人はカラスの死体を目にしたことはないと思います。カラスの死骸はなぜ、見かけないのでしょうか。死んだカラスは消化液等によって内臓が溶かされ、酵素によって自家融解し、あっという間に死体が消化されてしまうそうです。しかし、それは本当でしょうか。ここに仮説を立てることができるのかもしれませんが。確かに、ウニはミョウバンにつけないと身が直ぐに液状化してしまいます。カラスの場合、自己消化という現象によって死体を、人間がほとんど目にすることはないのでしょうか。この疑問から情報の収集し、整理・分析し、知識と知識を結び付け、明らかになったことから自分の意見をまとめ、表現することが「探究」になるのだと思います。

他の例も上げておきます。

近年、キャッシュレス化が叫ばれていますが、キャッシュレス化は現実に実現可能なのかを考えることができます。皆さんも、プリペイドカードやスマートフォンのアプリによる売上の決済を利用していると思います。今後、キャッシュレス化が進進しても、銀行券(紙幣)と補助貨幣(硬貨)という現金はなくなるというといわれています。これに対して疑問を持って仮説を立て、情報を収集して整理・分析を行い、自らの結論を立てることが「探究」になるのです。

皆さんが「探究」を深化すればするほど、文系的なテーマを文系の枠組の中で行えることはほとんどなく、逆に理系的なテーマでも、文系的な知識などが必要になってきます。食料問題、貧困問題、人口問題、フードロス問題、エネルギー問題など、教科横断的な視点で学習を進めていかないと、結論に至らないと思います。「探究」もディベートと同様で、現代社会で話題になっている課題は、私たち一個人で解決できるのであれば、もう既に解決できているはずで、「探究」では、表現(結論)において自らの思いを強く出すのではなく、研究者のように自らの仮説に対して深く究めようとする姿勢を身に付けることが大切なのです。

「探究」する姿勢を身に付けることができれば、社会に出た時に、大いに役立ちます。本校で探究する力を身に付け、社会で活用してくれることを期待しています。